



園遊会や皇族の宿舎として使用された貴賓館（三里塚記念公園内）

成田 歴史 玉手箱

歴史と伝統文化の
まち・成田。市内に
は、歴史ある文化財
が多数あります。

下総御料牧場 貴賓館

ジンギスカン料理でもてなし国際親善に貢献

新東京国際空港ができる前、三里塚には“桜と馬”で親しまれた下総御料牧場がありました。明治8年開設当初は羊毛生産などを主たる目的とし、わが国の農畜産業の基礎を築きあげました。明治18年に牧場の所管は宮内省に移り、同21年には宮内省下総御料牧場と改称し、皇室御用の農畜産物の生産や乗馬・鞍馬の育成などをはじめ、在日外交官などの交流の場としても利用されました。その中心的な役割を果たしたのが貴賓館でした。

貴賓館は、牧場の経営責任者として明治政府に雇用されたアメリカ人アップ・ジョーンズの官舎として両国（現在の富里市）に建てられました。彼の退職後は牧場事務所として使われ、明治21年に現在の三里塚へ移築されました。

大正5年、新しい牧場事務所（現在の三里塚御料牧場記念館）が完成すると、同館は、ギリシャ様式のホールを設

けるなど内部を大改装し、各国大公使を招待する施設として生まれ変わりました。昭和24年4月にイギリス代表者などを招待し園遊会が開催されました。以後恒例となり、28年に第1回在京各国外交官招待が開かれ、毎年開催（昭和34年は実施されていない）されるようになりました。この行事は3日間にわたり、多くの外交官やその家族が来場し、馬や馬車で場内を散策し、昼食には牧場の新鮮な牛乳やジンギスカン料理を楽しみ、国際親善の発展に大きく寄与しました。当時を知る三里塚の人々はその時の印象を「各国の人々に大変好評だったのは、新緑の牧場の風景とジンギスカン料理でした」と語っています。

昭和41年7月、この地に新東京国際空港を設置することが閣議決定され、翌年新牧場を栃木県高根沢とし、同44年8月に牧場閉場式が行われ、約1世紀にわたる幕を閉じました。



新緑の場内を馬で見学する外交官とその家族（三里塚御料牧場記念館提供）



三里塚名物“ジンギスカン料理”で各国外交官をもてなし、国際交流を深めた（三里塚御料牧場記念館提供）

編集後記

本号の表紙は、先月23日に市陸上競技場で行われた、日本高校選抜サッカーチームと大学生チームとの練習試合のひとコマです。ワールドカップのキャンプ候補地として整備した施設とアクセスの良さは多くの国が認めたところ。特にリニューアルした芝生は本大会の競技場に負けないほどのものです。将来の

日本サッカー界を背負う彼らだけでなく、これからは多くの名選手が国際試合前の合宿などでこのピッチに立つはず。ワールドカップが終わってからも、こうした選手を間近に見ることができる機会は確実に増えそうです。子どもたちやサッカーファンの夢はどんどんふくらみます。